

ようこそおいでくださいました。今年も発表会が開催できなくなるかもしれないという不安が常につきまとう中で、それでも開催できると信じて出演者全員でがんばってきました。何度も何度もリハーサルをくりかえし、自信を持ってみなさんにお見せできる作品に仕上がったように思います。今回お見せする作品は「届ける―東北の地震と津波と原発事故で亡くなった数限りない命たちへ」「きょうのくもたち」「海の歌 ぼくの歌」です。「きょうのくもたち」は作舞者から、「海の歌 ぼくの歌」は、それぞれ“裕翔”と“雪”役を踊る出演者からのコメントを載せています。

きょうのくもたち

夏至 地球に住んでいるものはみんな仲間だよ。 藤田佳代

立秋 自分を見つめて 藤田佳代

秋分 昼夜の長さがほぼ同じになるこの日。思う景色があります。秋になると 西山教室（神戸市北区）でのお稽古中に見える夕日が最高に美しいのです。余りにもきれいなので、日が山の向こうに沈むまでお稽古をやめて見ていたこともあるほどです。空が赤くなったかと思ったら、ピンク、紫、オレンジに雲が染まっていきます。青や薄緑のような色を見せることもあります。シオン、ペニテングタケ、リス、白キツネがみんな夕日を眺めます。ドングリを拾いに出かけていたリスがまだ戻ってきていません。夕日が沈むまでに戻ってくるのでしょうか。みんなであの風景を見ることができのでしょうか。そんな踊りです。 かのり子

立冬 ちょうど発表会本番のころから11月にかけてのころでしょうか。空気が澄んで、空、朝焼けが美しいころですね。柿の実もちょうど色づきはじめてお日さまみたいに真っ赤になります。白鹿が駆けまわり、花々は黒百合、白菊、山茶花がお日さまに向かって「おはよう」と言わんばかりに舞い踊ります。冬のはじめの色とりどり賑やかな景色です。 向井華奈子

冬至 太陽の力が最も弱まった冬至の頃に芽を出す珍しい植物が、ウツボグサ（夏枯れ草）です。夏至の頃に紫色の可愛い花と葉が、黒く枯れたように見えることからその名が付けられました。昔の人々は冬を無事に乗り越えることができるのだろうか…と不安を感じていたようです。そんな中で新しい命を芽吹き始めるウツボグサは、私の心にも希望を与えてくれる花です。踊りに登場するスズメちゃんも寒い冬を元気に乗り切ってくれることでしょう。 金沢景子

立春 毎年、立春と聞くと「春だ！」と反射的に思ってしまい、実際の寒さとのギャップに「騙された」（誰も騙したわけではないのですが）と感じてしまいます。それでも、この頃から春の兆しが見られるようになります。その一つ、ツバキの花を取り上げました。雪雲の中、力強く咲くツバキ、少しずつ春へと近づく季節を表せたらと思います。 寺井美津子

春分 今年の3月28日は日の入り直前に月の出を迎える、まさに与謝蕪村の「菜の花や月は東に日は西に」そのものの風景を見られるはずの一日でした。ずっと楽しみにしていましたのですが、その日はあいにくの雨。本当に残念でした。 菊本千永

立夏 わたしたちもその橋をわたりたい。 藤田佳代

海の歌 ぼくの歌

私は雨の踊りで裕翔になります。一人ぼっちで寂しかった裕翔が雪と出会い、嬉しくて嬉しくてたまらない心境を表現できる様に頑張りたいです。 吉川菜々子（中2 本部）

私は一番初めの龍の役で、踊り以外にも早替えとかもあるので、うまく出来るようにがんばりたいと思います。 坂本まつり（中1 本部）

新型コロナウイルスで練習する時間が限られたり、マスクをして練習したりして大変でしたが、頑張っている以上以上の力を発表会で出すことができるようにしています。来年で研究科なので最後の「届ける」の3拍子も頑張りたいです。 福本莉菜（中3 本部）

わたしは、山の門の守りと山神のお子たちの龍役をします。いっしょにおどる裕翔役のお姉さんと息を合わせてがんばりたいです。あと、みんなでピルエットをするところをとくにがんばりたいです。 住谷蒔（小4 本部）

私は裕翔役をしますが、土の門の守りに通してもらえそうな、すてきなおどりができたらいいなと思っています。今年も発表会に出られてうれしです。精一杯頑張ります。 長永璃子（小5 西大和）

きよくは すこしこわいけど、ゆうとくんを あんないするために 元気いっぱい雪になりきります。 加藤優菜（小2 有野）

私はちょうど5年前、初めての主役で男の子の役をしました。小学2年生だった私は中学1年生になり、またもう一度主役の男の子ができる事がとても嬉しいです。中学生らしく、表情や細かい動き、表現力など成長したところを発表できるといいなと思います。 石井棚結（中1 加古川）

竜だから強くかっこいいイメージでおどりたいです。選ばれたから最後までちゃんとやりきるぞ！という気持ちでやりたいです。 池田陽愛（小4 加古川）

火に囲まれた少年の気持ちになって踊ることを心がけています。見ている人に、実際に火に囲まれている少年、というのが見えるくらいの踊りになるよう、頑張ります。 岡村春花（中3 本部）

私は、りゆうでしっばいしないようにがんばっておどります。 千原芽希（小3 本部）

私はゆうとが石を返すために、たくさんの方が起きている中での、風の場面をおどります。最後にどっちにいけばいいかでまよっているところ
りゅうと息をあわせてせいいっぱい演じたいです。 吉川ひかる (小5 本部)

わたしは二つの竜の役をします。大事な役がもらえてうれしかったです。風に乗る竜と千鳥にみちびかれる竜ですが、どちらも子どものやさしい竜
をイメージしておどります。立ちブリッジからおき上がるのが、にがてだったので家で練習しました。竜とゆうとが二人でソロをするシーンが好き
なのでお客さんに見てほしいです。 岸本穂花 (小3 本部)

水の門の守りは、水の門達や龍と息を合わせることがとても大切な踊りだと思っています。かっこいい曲と合っていて凄く大好きな踊りです。最
後まで元気いっぱいの裕翔くんを踊りきれるように頑張ります。 中野茉歩 (高1 永和)

わたしは、かじ先生に「ひな、りゅうの役してくれる？」と言われたとき、むねがばく発するくらいうれしかったです。でも、実さいに練習してい
ると、とてもむずかしくて先生によく注意されました。今までより、小さい動きも大事にするようにしました。がんばってやりとげるので、友達や
家族に見てほしいです。 細見陽向 (小4 桂木)

私は海の中の裕翔を演じます。魚を見たことのない裕翔は見た目や動きなどで次々に出てくる生きもの達に名前をつけていきます。
谷川結香 (中2 本部)

むずかしいところもがんばってたくさん練習しました。みんなでがんばっておどるので、ぜひ見てください!! 常峰みなみ (小5 本部 三田)

私は裕翔役をします。龍と渦に巻きこまれるシーンに出演します。海の中にいる設定なので足どりを少し遅らせたり動きをゆるやかにすることで表
現します。巻き込まれる場面では、なかなか進めない様子をリアルに再現したいです。 住谷緒 (中1 本部)

私は、うずの中のりゅうの役をします。水におされているところがむずかしいのでがんばろうと思います。 森暖乃 (小3 本部)

今回、石の受け渡しや演技するところがあるので、上手にできるように頑張りたいと思います。 坂本のより (高2 本部)

初めてのリサイタルです。応援よろしくお願ひいたします!

第1回 自灯明モダンダンスステージ 2021年11月3日(祝・水) 神戸ファッション美術館オルビスホール

出演 安岡珠希 住谷蒔 岡田珠季 吉川ひかる 高橋陽奈 中野茉歩 北川武胡 坂本のより 村上美羽 佐藤茉莉 石井麻子 板垣祐三子
向井華奈子 かじのり子 菊本千永 金沢景子 菊原麻衣花 稲益夢子 田中文菜 平岡愛理 梁河茜 東伸一矩(ゲスト)

私たちは梁河茜、平岡愛理、田中文菜、稲益夢子、菊原麻衣花の5人で結成されたグループ「自灯明」です。佳代先生から「自灯明」として公演を
行うことを提案頂き、思ったことは、災害やコロナウイルスなどにより不安を感じることが多いこの世界を元気づけることや希望のような物を残せ
ないかということです。それぞれ学業や仕事をしながら、どこまでできるのか不安でした。しかし先生方を始め、先輩後輩ダンサーに支えられな
がら、想像でしかなかったものが「あーでもない」「こうでもない」「こうすれば?」と皆で模索し作品として形になっていく様はとても嬉しく、
踊り続けられることに幸せを感じています。また、作品作りだけでなく公演をするにあたりチラシ製作や広報のお願い、書類製作なども経験し、た
くさんの人に支えられて一つの舞台が成り立っていることに改めて気づき感謝の気持ちでいっぱいです。

私たちは幼い頃からバレエを続けていますが楽しいことだけでなく、行き詰まり苦しいこともありました。うまく行かない私も私。自分を失うこ
となく、心の灯を絶やさずに生きていかなければと思うものです。今回の舞台では先の見えないこの世の中から少し離れて、皆様の心がポツとあた
たかくなる、そんな舞台になればと願っています。

VIBRANT 稲益夢子 菊原麻衣花

私たちは、中学生の頃から2人で何曲も作品を創ってきました。“VIBRANT”(ヴァイブラント)とは、「活気に満ちた」「鮮やかな」といったポジ
ティブなイメージをもつ言葉です。初心にかえて、表現することの楽しさや鮮やかさを踊りにしたいと思い、この作品が生まれました。
自灯明のメンバーの中でも年下であり、まだまだ未熟な2人ですが、夢子&麻衣花ワールドを堪能していただけると幸いです!

追憶 平岡愛理

父が亡くなってから9年経つ今、踊りを通して過去に向き合ってみることにしました。亡くなった当初は現実を受け止められず、過去に触れないよ
うにしている自分でしたが、振り返って見ると辛い気持ちのほとんど向こうには楽しかったこと、父に言われた言葉や愛されていたことなどを思
い出し辛かった思い出が暖かい思い出にスッと変わったように感じました。と、同時に父を安心させられるよう、前を見て今をしっかりと生きて行
きたいと改めて感じました。父が好きだったギター之音に合わせて踊ります。

nowhere

約2年半前の創作実験劇場にて私達が自灯明として結成される前に5人で初めて踊った作品です。学生、社会人と時間が合わない中、切磋琢磨し創
作した記憶があります。その作品を今回は再演させていただくこととなり、2年半という年月で得られた経験を元にアレンジも加えました。
何気なく過ごす、今・・・その一瞬が積み重なって、今日になって、一年になって、十年になってそれが自分の一生になるのに、その一瞬を後悔な
く生きるって難しい。けれど、人生は今というピースで溢れています。そして、たくさんの人や物事の流れの中に生きています。何気なく過ぎるこ
の一瞬をどれだけ大切にできるのでしょうか。変化する流れの中、わたしは私1人として・・・。

灯

今年3月の舞台で「灯」の最初の2曲を披露させていただきました。立ち止まり、思い悩み、不安に苛まれ、誰かを頼りながら日々を模索してい
たような、まるで今のこの世の中を表すような作品でした。しかし今回追加した2曲では、それらから離れていき、自立していく、そしてやはり周り
には仲間がいる、1人で立っていながらも互いに支え合っている、そんな姿を、先生方や若手ダンサー達のたくさんの方のお借りして表現しています。
世界が様変わりしてからもうすぐ2年が経とうとしています。今回の「灯」を通して、見ていただく方々にもそれぞれの道を見つけ出し、自分自身
を頼りにして生きていくことができるような、その「灯」になるような作品になればいいなと思います。